

令和5年度
自己評価報告書

評価対象期間

自：令和5年4月

至：令和6年3月

作成日：令和6年5月31日

学校法人菊武学園

専門学校名古屋ウェディング&フラワー・ビューティ学院

学校評価委員会

委員長	中川	信子	(校長)
副委員長	羽田野	梨香	(校長補佐)
委員	蓑島	哲也	(学事課長)
	鈴木	順子	(事務課長)
	森田	武志	(学事課長補佐)
	佐藤	愛	(ブライダルビジネス科学科長)
	田中	洋	(フラワービジネス科学科長)
	加藤	いく子	(トータルビューティ科学科長)

学校評価委員会開催日 令和6年4月23日

学校評価委員会開催場所 3階会議室

「建学の精神」 「学校理念」 「学校目的」 「育成人材像」

学校法人菊武学園 建学の精神

本学園の建学の精神は「職業教育をととして社会で活躍できる人材の育成」であり、本校教育の基盤である

学校理念

「本物志向の教育」、「国際教育・教育の国際化」、「師弟同行を踏まえた教育活動」、「学校文化」

学校目的

豊かな感性、高い道德心、たくましい心身を持って、地域社会において信頼される人間、かつ、自分の一生において果たすべき役割を自覚し、進むべき道を主体的に切り開く人間の育成

育成人材像

1. 地域社会、国際社会の動向に目を向け、より良い社会の実現に向けて主体的かつ積極的に行動し、貢献することができる
2. ブライダル・フラワー・ビューティの各分野における専門性の基礎となる幅広い教養を深め、専門的な知識・技術・職業理解を身につけている
3. 他者を尊重し、多様な価値観を受け止め、様々な人々と円滑にコミュニケーションを図ることができる
4. 自らを律し、課題を発見し、他者と協働して課題解決のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる
5. 身につけた教養や専門性をもって他者に寄与できることの幸福やその重要性を深く理解することができる豊かな人間性を有している

評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切=4		ほぼ適切=3	
	やや不適切=2	不適切=1	不適切=1	不適切=1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか	④	3	2	1
学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・関係業界・保護者等に周知がなされているか	4	③	2	1
学科の教育目標・人材育成像は、業界のニーズに向けて対応しているか	④	3	2	1

○本校の理念・目的・育成人材像が本校教育活動の根幹をなしており、それらを実現すべく教育活動に日々、取り組んでいる。

○専門分野に関する深い知識と高い技術を身につけさせることに加えて、社会人・職業人としての良識を備えた各業界で活躍できる人材の育成に真摯に取り組んでいる。

○関連3業界の方々より業界の動きや採用動向等をお聞きし、本校の就職指導に生かすよう努力を続けたい。

今後に向けての方策

○本校の教育が現場で十分に通用するものとなるよう、業界の方々からの声に真摯に耳を傾ける姿勢が必要である。そのためにも、一人の教員が得た情報を、教職員全員で共有できる体制を整えていきたい。

(2) 学校運営

評価項目	適切=4		ほぼ適切=3	
	やや不適切=2	不適切=1	不適切=1	不適切=1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか	④	3	2	1
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

○日々の教育活動等に関しては、SNSを通して随時発信中。フォロワー数も伸びている。

○業務の効率化を進めることによって、就業時間の短縮を図るようにしている。

今後に向けての方策

○令和6年度より、新しい学内システムを導入予定。システムの刷新に伴い、学校より学生への連絡がより確実なものとなる「学内統合情報システム」を利用することによって、適切な情報管理に努めていきたい。

(3) 教育活動

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
各学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
授業評価の実施体制はあるか	④	3	2	1
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
成績評価・履修認定、進級・卒業認定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

- カリキュラムの見直しを行い、令和6年度より3学科とも新教育課程で授業を実施できるよう準備を行った。
- 学生による授業評価に関しては、場合に応じて授業担当教員に改善を求めるよう依頼した。
- 資格試験直前対策授業を集中的に行い、合格率を高められるよう努力をした。
- 学園主催の教職員研修が年に数回実施されている。

今後に向けての方策

- 令和6年度より導入予定の新教育課程を実施しながら、更なる改善点があるのかどうか留意していく。

(4) 学修成果

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1

- 新卒売り手市場の就職活動については、昨年に引き続き令和5年度も就職活動は学生に有利な状況となっている。但し、人気のある企業の求める人材のレベルが低くはなっていないため、丁寧な就職指導を行っている。
- 退学率は令和4年度は6.8%であったが、令和5年度は4.3%へ下がった。

今後に向けての方策

- 令和6年度の退学率を、4%を切るように努力をしていきたい。学生の悩み等に早目に対応し、必要であれば保護者にも来校いただくよう依頼していきたい。

(5) 学生支援

評価項目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
進路に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
学生の健康管理を担う組織体制は整備されているか	④	3	2	1
学生への経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1

○令和5年度は技能五輪全国大会フラワー装飾部門に本校の学生が3名出場し、銀賞・敢闘賞を受賞。フラワービジネス科内に、より真剣に学びに取り組もうとする気運が高まった。

○令和5年度はブライダルビジネス科の学生が新たに「着物着付けコンテスト」にも参加し入賞を果たした。

○春に健康診断を実施（全学生・全教職員対象）。また、毎年4月に学生健康調査を実施。これらの結果を踏まえて、卒業までの2年間の学生健康管理を適切に行っている。

今後に向けての方策

○学生の就職活動開始時期が早まる傾向にある。校内企業説明会へ一人でも多くの学生が参加するよう、今まで以上に働きかけていきたい。

○更なる学びの良い機会となるので、令和6年度以降もコンテスト等への積極的な参加を呼び掛けていきたい。

(6) 教育環境

評価項目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2	不適切 = 1		
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

○施設・設備に関しては、3分野の実習授業で必要となるものを完備している。

※令和3年3月に、1階の応接スペースをパーティースペースへ変更。

○学外の実習授業・インターンシップ、海外研修の場等については、関連分野の企業との連携のもとに研修場所を確保している。

○防災に対する意識を高めるよう指導している。

今後に向けての方策

○従来の個々のインターンシップ参加に加えて、令和6年度より授業の一環としてフラワービジネス科1年生のインターンシップを開始予定。

(7) 生徒の受入れ募集

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2		不適切 = 1	
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	④	3	2	1
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
生徒募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

○高校訪問等を通して、在校生の学習状況、就活状況、また卒業生の動向について説明を行っている。

○学びに対して意欲的な学生をサポートしたいとの思いから、学費減免のある高校推薦入試を紹介している。
毎年、希望する学生が多い。

○学生募集活動において、取得可能資格や就職先等についての説明を行っている。

今後に向けての方策

○高等学校よりの出張授業依頼が入る時には、スケジュールの調整をできる限り行い実施していきたい。

(8) 財務

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2		不適切 = 1	
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

○学校の収入源の第一は学生生徒等納付金収入であることから財務の基盤は在籍数となる。

○当年度収支差額はプラスを維持している。

○学園本部による内部監査が年2回、公認会計士監査が年3回行われ、適正な会計処理を行っている。学園の財務情報はHPにて公開されている。

今後に向けての方策

○少子化の流れの中にあっても、真に価値ある教育内容を持つ学校は選ばれる。教育課程の内容も適宜変更していきたい。

(9) 法令等の遵守

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2		不適切 = 1	
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

- 法令、専修学校設置基準等を遵守し、円滑な学校運営を行っている。
- 個人情報に関しては、学生及び教職員に関する一切の情報の持ち出しを禁止している。
- SNSを利用して広報活動を行う機会が多くある。学生の写真等が掲載される場合には、事前に掲載の可否を必ず本人に確認している。
- 自己評価は、2020年より公開し、問題点に関しては教職員で共有している。

今後に向けての方策

- 自己評価結果を踏まえて、それを次年度へ活かしてゆく体制をより整えていきたい。

(10) 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	適切 = 4		ほぼ適切 = 3	
	やや不適切 = 2		不適切 = 1	
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
学生のボランティア活動を奨励しているか	4	3	②	1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

- 最近の社会貢献・地域貢献については、以下の通りである。
 - ブライダルビジネス科・・・本物の結婚式プロデュースの実施
 - 愛知県立名古屋豊学校（千種区）生徒に対するドレス授業の実施
 - フラワービジネス科・・・名古屋市役所西庁舎 壁面緑化・木の植え込み等
 - 星ヶ丘テラスにおけるグリーン・フラワーの植栽
 - 学校前花壇の制作兼メンテ
 - トータルビューティ科・・・校内ビューティサロン（1コイン）

今後に向けての方策

- 社会貢献として、全校をあげての募金活動等も行っていきたい。